

岩手大学農学部応用生物化学科助教募集要項

1. 公募の目的・概要

この度本学では、研究基盤体制の充実及び岩手大学男女共同参画行動計画の目標達成を図るため、以下のとおり農学部応用生物化学科ケミカルバイオロジー分野（平成 28 年 4 月 1 日に応用生物化学課程から改組予定）における助教 1 名（女性限定）を採用することとなりましたので、広く公募します。

なお、採用となった場合の所属は岩手大学男女共同参画推進室となり、実質的には農学部配置されることとなる旨申し添えます。

2. 担当教育研究専門分野・主要担当科目等

応用生物化学科・ケミカルバイオロジー分野
化学生物学実験など

3. 所属

男女共同参画推進室（実質的な配置は農学部）

4. 職位・人員

助教 1 名（女性限定）

※ 岩手大学は男女共同参画を推進しています。

今回の公募は、男女雇用機会均等法第 8 条の規定に基づき、女性に限定して募集するものです。

産前産後休暇、育児休業及び介護休業を取得していた場合には、選考の過程で考慮します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については岩手大学ホームページ (<http://www.iwate-u.ac.jp/gender/>) をご覧ください。

5. 任期

5 年

なお、任期の末日は、満 65 歳に達した日以後における最初の 3 月 31 日を超えないものとする。

6. 給与

年俸制とし、年俸の 12 分の 1 の額を毎月支給します。

7. 応募資格

女性で以下の条件を満たす者

- (1) 博士（または Ph.D.）の学位を有するか、赴任日までに取得可能であり、上記の専門分野において優れた業績を有する者
- (2) 上記の専門分野の教育研究に関する十分な能力と意欲を有し、学及び学部の運営に積極的に取り組める者
- (3) 研究成果の社会還元や企業への技術移転に積極的に取り組める者

8. 採用予定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

9. 応募書類

（用紙は、別刷等も含め原則として A4 版を使用し、PDF ファイル（5 MB 以下）にしてお送りください。また、様式は岩手大学農学部研究業績記載例に則り記載してください。）

- (1) 教員個人調書：1通（写真添付、学歴は高等学校卒業から記載、E-mail アドレス記載）
- (2) 研究業績一覧：下記の分類に従って、A4判横書きに年代順に記載する。
 - A. 著書・訳書
 - B. 学位論文
 - C. 総説・論説
 - D. 原著論文
 - (a) 学術雑誌、(b) 紀要、(c) プロシーディングスに分けて記載する。
 - E. その他（報告書・事業報告書など）
 - F. 特許・設計など
 - G. 国際学会発表（最近5ヶ年）
 - H. 国内学会発表（最近5ヶ年）
- (3) 主要論文の別刷り：5編以内
- (4) 現在までの教育研究内容の概要：A4用紙1枚程度
- (5) 着任後の教育研究に対する抱負：A4用紙1枚程度
- (6) 特筆すべき教育・研究業績（受賞や特許など）、競争的資金獲得状況、社会活動や学会活動など
- (7) 応募者について問い合わせができる方の氏名と連絡先（2名）

10. 選考方法

一次：書類選考、二次：プレゼンテーション及び面接選考。

なお、選考過程において応募者の来訪を求める際の経費は、自己負担になります。

11. 応募期限

平成27年12月7日（月）12:00まで

12. 提出方法：上記の提出書類(1)-(7)をPDFファイルに変換し(5 MB以下)、下記のメールアドレスにお送りください。

13. 応募書類提出及び問い合わせ先

岩手大学農学部・応用生物化学課程・課程長

応用生物化学科・助教選考委員長 木村 賢一 宛

(TEL/FAX:019-621-6124, E-mail: kimurak@iwate-u.ac.jp) 宛

なお、メールのタイトルは「ご所属・お名前・教員応募書類（ケミカルバイオロジー）」と記載してください。

応用生物化学科の状況（平成28年4月1日予定）

現員：教授8名、准教授6名、助教1名（今回公募）。応用生物化学科は、土壌学、植物栄養学、植物ストレス生化学、細胞生物学、分子生物学、生化学、応用微生物学、ケミカルバイオロジー、栄養化学、食品化学、食品化学工学分野の教員から構成される予定です。

添付書類：農学部研究業績記載例

備考：原則としてWeb応募。提出頂いた書類の個人情報採用選考以外の目的では使用せず、終了後は責任を持って廃棄致します。

写真添付

教員個人調書

岩手大学農学部

平成 年 月

ふりがな				性別	現 住 所	
氏 名	印			男		
生年月日	年 月 日生			女		
専 門 分 野	現 在 の 職 位			採 用 予 定 の 職 位		
担当授業 科 目						
主な学歴						
最終学位	種 類	取得大学	論 文 題 目		取得年月日	
主な職歴						
現在の 研究状況						
学会及び 社会におけ る活動状況						
研究に対す る栄誉、賞 金、奨励金、 科研費補助 金、特許等						
著 書 学術論文等	別紙記載のとおり					
				平成 年 月 日 教授会承認		

研究業績（著書・學術論文等）

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A 4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り返してください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等を記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- *5：最近5カ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著書名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著書とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
 1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.

3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)

Agricultural in Japan, “Agricultural Sciences” (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)

X Y Z に関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]

2. 岩手一郎 (1983)

A B C に関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)

岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.

2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)

岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)

岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.

2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.

3. Iwate, I. (1990)

Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)

トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)

Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc.
5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.